

9月より**6年生対象の祝日特訓**(無料)をします。 午前9時～12時

第一回 9月16日(月)敬老の日	申込受付開始 9/10(火)正午(12:00)～	祝日特訓は 申込制 とします。 ①各回の 申込受付開始日 は左のようになります。 ②申込は ショートメール で、お送りください。 ③ショートメールは次のような形式でお願い致します。 祝日特訓〇月×日を申し込みます。 錦織ナオミ
第二回 9月23日(月)秋分の日振替休	申込受付開始 9/17(火)正午(12:00)～	
第三回 10月1日(火)都民の日	申込受付開始 9/25(水)正午(12:00)～	
第四回 10月14日(月)体育の日	申込受付開始 10/8(火)正午(12:00)～	
第五回 10月22日(火)即位礼の日	申込受付開始 10/16(水)正午(12:00)～	
第六回 11月4日(月)文化の日振替休	申込受付開始 10/29(火)正午(12:00)～	

*これは信義の問題ですが、この祝日特訓にほとんど出ておいて、12月で鈴木国語をやめるというようなことはしないでいただきたい。
無料で特訓をするのは、鈴木国語の合格者を増やすためであり、慈善事業をしているわけではないからです。結果を打算して右往左往する人間の何とみともないことか。信念をもって、正攻法で、最後まで、ぶれないでやり抜く以外に、成功への道はありません。

*1月まで在籍した生徒には、毎年卒業記念品として一生読めるような本を2冊プレゼントしています。
もう千数百冊プレゼントしています。

*合格体験記を書いた生徒・ご父母には図書カードをプレゼントしています。第一志望に合格して、合格体験記を書いて下さい。

1月には**直前秘密特訓**(無料)をします。 *申込方法については12月にお知らせします。

1月13日(月 am9:00-12:00) / 23日(月 pm4:30-8:30) / 30日(木 pm4:30-8:30) / 31日(金 am9:00-12:00)

ひとこと

君たちは秋から模擬試験をたくさん受ける。

①しかし、受けっぱなしでは意味がない。できなかつたところは復習・理解して確実に自分のものにすることが必要だ。特に、算数・理社についてはこれが大切だ。したがって、受ける回数は復習の可能性によって決まってくるはずだ。ちなみに、国語はできなかつた問題を2～3問程度再検討してやり方を把握する。

②よく試験慣れなどということを使うが、漢字の練習をしない人間が試験に慣れた所で、漢字が書けるようになるわけではない。逆に、実力のある人間はすぐに試験になれるだろう。無意味に試験ばかりを受けているよりも一刻を惜しんで実力をつけることが大切だ。

③試験結果に一喜一憂する人が多いが、試験結果をもとに自分のこれまでの勉強過程を反省する人、これからの勉強方法を工夫する人は少ない。試験は感情で対応するものではなく、冷徹な理性的計算で対応すべきものだ。というよりも試験を受ける意味の一つは、後者を磨くことにある。冷徹な理性的計算こそ本番を勝ち抜く本当の試験対応力だからだ。試験を受ける以上、反省→工夫という理性的な対応をすべきだ。落ち込むなどの感情的対応は愚の骨頂だ。

④試験のためにつじつま合わせの勉強をすべきではない。きちんとした自分の勉強を積み重ねつつ試験を受けていくべきだ。試験ごとに一夜漬けのようなつじつま合わせの勉強をしていると、結局力を付けないまま本番を迎えることになり、不合格となる。マイペースとはとろとろ勉強することではなく、自分の目的のために自分の道を自分でひたすら歩むことだ。

さらにひとこと

記述力をつけたかったら、参考解答を完璧に再現できるようにしろ。「学ぶ」という言葉は「まねぶ(まねる)」から生まれた言葉だ。ピアノの練習は先生のピアノをまねするところから出発する。先生と同じように弾けることを目指す。これが「まねぶ(まねる)」だ。こうしていくつもの曲をマスターしていくうちに、自分らしい弾き方もできるようになっていく。しかし、自分勝手なでたらめを弾き続けていても技術は向上しない。記述力の向上も同じような過程を通る。まず夢に見るくらいまねをして自分のものにしてしまうこと。

もう一言

国語はしっかりした方法で勉強していれば、入試本番までには必ず力がついてくる科目だ。これは君たちの精神年齢の発達(抽象的思考と論理力の獲得)と関係がある。君たちは入試に真剣に挑戦することで大きな精神的成長を得る。国語力もこれと相まって潜在的なものが一つにまとまり、大きく伸びる。この機会を逃すべきではない。無意味な宿題などの無駄な勉強は一切しないことだ。